

# 社会福祉法人緑ヶ丘学園 定款

第1章 総則	(第1条～第4条)
第2章 評議員	(第5条～第8条)
第3章 評議員会	(第9条～第14条)
第4章 役員及び職員	(第15条～第23条)
第5章 理事会	(第24条～第28条)
第6章 資産及び会計	(第29条～第37条)
第7章 解散	(第38条～第39条)
第8章 定款の変更	(第40条)
第9章 公告の方法その他	(第41条～第42条)
附 則	

## 第1章 総則

(目的)

第1条 この社会福祉法人(以下「法人」という。)は多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

- (1) 第1種社会福祉事業
  - (ア) 障害者支援施設の経営
  - (イ) 特別養護老人ホームの経営
- (2) 第2種社会福祉事業
  - (ア) 障害福祉サービス事業の経営
  - (イ) 相談支援事業の経営
  - (ウ) 老人デイサービス事業の経営
  - (エ) 老人短期入所事業の経営
  - (オ) 認知症対応型老人共同生活援助事業の経営

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人緑ヶ丘学園という。

(経営の原則等)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、経済的に困窮する者等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を北海道稚内市声問5丁目44番11号に置く。

## 第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員8名以上9名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、事務局員1名、外部委員2名の合計4名で構成する。

3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、

新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

3 在任期間において評議員が退任した場合には補欠の評議員を選任できるものとし、その任期は前任者の残任期間とする。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員は無報酬とする。

### 第3章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は全ての評議員をもって構成する。

2 評議員会に議長を置き、議長はその都度評議員の互選で定める。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び評議員会において選任した評議員2名は、評議員会の議事について議事の経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成し、これに署名又は記名押印する。

### 第4章 役員及び職員

(役員の数)

第15条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 7名以上8名以内
- (2) 監事 2名

2 理事のうち1名を理事長とする。

3 理事長以外の理事のうち、1名を常務理事とする。

4 前項の常務理事をもって社会福祉法第45条の16第2項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、常務

理事は、理事長の業務の執行を補佐する。

3 理事長及び常務理事は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

3 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(職員)

第22条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員(以下「施設長等」という。)は、理事会において選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

(名誉理事長、名誉理事)

第23条 この法人に、名誉理事長及び名誉理事を置くことができる。

2 名誉理事長は、理事長に20年以上在任した者の中から、名誉理事は、常務理事、理事、監事に20年以上在任した者の中から、法人の運営に功績のあった者を、理事会の同意を得て、理事長が委嘱することができる。

3 名誉理事長、名誉理事は、この法人の業務について、理事長の諮問に応え、又は意見を具申することができる。

## 第5章 理事会

(構成)

第24条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第25条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 理事長及び常務理事の選定及び解職

(招集)

第26条 理事会は、理事長が召集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を召集する。

(決議)

第27条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事(当該事項について議決に加わることができるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき(監事が当該提案について異議を述べたときを除く。)は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第28条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

## 第6章 資産及び会計

(資産の区分)

第29条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の2種とする。

2 基本財産は、別表第1に掲げる財産をもって構成する。

- 3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。
- 4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため必要な手続きをとらなければならない。

(基本財産の処分)

第30条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、稚内市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、稚内市長の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第31条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(事業計画及び収支予算)

第32条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第33条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
  - (2) 事業報告の附属明細書
  - (3) 貸借対照表
  - (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
  - (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
  - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。
  - 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第34条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第35条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第36条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

## 第7章 解散

(解散)

第37条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第38条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

## 第8章 定款の変更

(定款の変更)

第39条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、稚内市長の認可（社会福祉法第

- 45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。)を受けなければならない。
- 2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を稚内市長に届け出なければならない。

## 第9章 公告の方法その他

(公告の方法)

第40条 この法人の公告は、法人の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第41条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

### 附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長	林	仁三郎
理事	相 沢	誠 作
理事	福井谷	静 枝
理事	米 倉	八郎太
理事	品 田	宗 一
理事	石 山	兼太郎
理事	平 柳	幹 雄
監事	鷹 田	林太郎
監事	長谷川	順 平

- 2 この定款は、平成29年4月1日から施行する。

別表第1 (第29条関係)

種別	名称	所在地	内容・構造・面積
土地	稚内はまなす学園 体育館敷地	北海道稚内市声問5丁目6898番3	延べ1,493.32平方メートル
土地	グループホーム敷地	北海道稚内市萩見5丁目2181番4	延べ238.00平方メートル
土地	グループホーム敷地	北海道稚内市栄1丁目1066番113	延べ410.19平方メートル
土地	グループホーム敷地	北海道稚内市栄1丁目1066番114	延べ265.37平方メートル
土地	グループホーム敷地	北海道稚内市栄1丁目1066番115	延べ233.51平方メートル
土地	グループホーム敷地	北海道稚内市栄1丁目1066番116	延べ227.91平方メートル
土地	グループホーム敷地	北海道稚内市栄1丁目1066番117	延べ257.75平方メートル
土地	グループホーム敷地	北海道稚内市栄1丁目1066番118	延べ240.56平方メートル
土地	稚内緑寿苑敷地	北海道稚内市声問5丁目4757番30	延べ4,525.07平方メートル
建物	稚内はまなす学園 園舎	北海道稚内市声問5丁目4067番地13	鉄骨造陸屋根平家建 延べ1,232.26平方メートル
建物	稚内はまなす学園 体育館	北海道稚内市声問5丁目4067番地13	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建 延べ441.94平方メートル
建物	稚内はまなす学園 園舎	北海道稚内市声問5丁目4067番地13	鉄骨造陸屋根平家建 延べ188.75平方メートル
建物	稚内はまなす学園 園舎	北海道稚内市声問5丁目4067番地13	木造合金メッキ鋼板葺平家建 延べ580.49平方メートル
建物	稚内はまなす学園 重度棟	北海道稚内市声問5丁目 4067番地5、15	鉄骨造陸屋根平家建 延べ1,161.45平方メートル
建物	松風荘	北海道稚内市萩見5丁目2181番地4	木造亜鉛メッキ鋼板葺2階建 延べ116.64平方メートル
建物	春風荘	北海道稚内市萩見5丁目2181番地4	木造亜鉛メッキ鋼板葺2階建 延べ116.64平方メートル
建物	青葉ハイツ	北海道稚内市栄1丁目1066番地113	木造合金メッキ鋼板葺2階建 延べ208.67平方メートル
建物	くさの実荘	北海道稚内市声問5丁目4067番地1	木造合金メッキ鋼板葺平家建 延べ264.16平方メートル
建物	ゆきみ荘	北海道稚内市声問5丁目4067番地1	木造合金メッキ鋼板葺平家建 延べ148.22平方メートル
建物	サポート末広	北海道稚内市末広3丁目9番地37	木造亜鉛・合金メッキ鋼板葺2階建 延べ397.16平方メートル
建物	稚内はまなす学園 体育館	北海道稚内市声問5丁目4067番地13、 986番地1、6898番地3	鉄骨造陸屋根2階建 延べ993.95平方メートル
建物	稚内緑風苑	北海道稚内市声問5丁目4067番地5	鉄筋コンクリート造陸屋根平家建 延べ4,171.40平方メートル
建物	稚内緑風苑	北海道稚内市声問5丁目4067番地5	木造合金メッキ鋼板葺平屋建 延べ931.64平方メートル
建物	稚内緑寿苑	北海道稚内市声問5丁目4757番地30	木造合金メッキ鋼板葺2階建 延べ343.24平方メートル
建物	稚内緑寿苑	北海道稚内市声問5丁目4757番地30	木造合金メッキ鋼板ぶき平家建 延べ399.97平方メートル